

令和5年度第1回南牧村総合教育会議 議事録

議 事 日 程

令和5年7月20日（木曜日）午前10時00分 開会

1 開 会

2 村長挨拶

3 会議事項

（1）これからの南牧村の学校について

（2）その他

4 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席委員

村長 大村公之助

教育長 高見澤岡治 教育委員 吉澤忠彦 教育委員 高見澤みち子

教育委員 高見澤真紀

事務局職員出席者

教育委員会次長 津金義秀 学校教育係 宮下真依 指導主事 渡辺元子

総務課長 高見澤澄一

開会 午前 10時00分

◎開会の宣告

○高見澤総務課長 皆さん、おはようございます。

令和5年度の第1回の南牧村総合教育会議をただいまから開始いたします。

◎村長挨拶

○高見澤総務課長 それでは、村長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○大村村長 皆さん、おはようございます。

座って失礼しますが、今年度の第1回南牧村総合教育会議ということで、先般、教育長と話をしている中で、今回、皆さんのほうで教育委員会が中心となって、これからの南牧村の学校についてみんなで自由に語ろうという会を7月24日にあるという話を聞きまして、その前に皆さんに昨年2月にやったときにもお話ししたんですけども、中部横断道との絡みということで、なかなか村として皆さんに、特に学校の予定地については少し待っていただきたいという話の中で、他の問題について、学校をつくる上についてのいろいろな活動については、ぜひ遠慮なく皆さんのほうで実際に動いていただきたいという話をしてきました。

その結果、皆さんのほうも昨年にはいろいろな学校の視察をしていただき、それぞれ検討をしていただいたわけですが、今回、私、教育長の話を聞いて、一度、今の現在の中部横断道の実態を皆さんによく知っていただいて、そして、今後のことについて、これからのことについて、また1歩も2歩も先に進めていただければということで、今日お願いしたわけです。

簡単に中部横断道の話をしますけれども、中部横断道というのはご承知のとおり、皆さんも分かっていると思いますが、やはり最終的には土地なんですね、ルートなんです。

それは、土地問題というのはやはり個人の土地もあるし、公の土地もあるし、また、財産区あるいは村の土地といろいろあるわけですけども、そういったときに必ずいろいろな利害関係が絡むので、いろいろなご意見が出るわけ。そういう中で、注意深く、あまり中部横断道に刺激を与えないようにしてやらないと、山梨なんて今収まっていますけれども、地方担当の進捗状況というか、ルート帯だとか、あるいは今後やっていかなければいけないいろいろな問題について支障があるということ、私とすれば、中部横断道もやらないといけない、学校の問題もやらないといけないということで、両立してやってきたわけですけども、そういうバランスを見ながらやってきて、学校の関係については、学校づくり委員会とか学校づくり検討とか、やってきたわけなんですけど、その中で中部横断道に差しさわりがあってはいけないということで気を使ってやってきました。

ここに来て、皆さんも新聞等で見ているかと思いますが、やっとな国交省から1

歩も2歩も進んだ中部横断道についての動きが出てまいりました。

先般 14 日には調整会議というのがございまして、この調整会議というのは、やはり公民で南牧、要するに北杜市ですね、その 40 キロ内のそれぞれの自治体の中部横断道のルートに対していろいろとお願いをしている中で、国が、このことについては調整会議をやって、村の意見を聞いて調整しようということで、それぞれの要望がある中で、たまたま南牧のルートに関係する話なんですけれども、いろいろお願いをした中で、配慮しなければならないという中で、今までつくっておった1キロ帯の中のインターチェンジの位置を計画よりも少しずらす、これに対して調整会議をやったということで、まだ決定的にルートが決まったとか、そういうのじゃない。これが今度出ますと、いよいよルートが、今までは、いつになるか分からないというような話をしてきた中で、大体いつ頃になるんじゃないかという憶測の中で来たんですけれども、私としても、本当に霧の中で手探りしているというか、雲の中から何かちょっとした光を見ながらやっていたというか、そういう状況というのは結構、国も県も周りの様子、経済だとか予算だとか、いろんなので、ここだけじゃないわけですから、そういう中でやっている。

今回、調整会議が出ました。その中でルートの位置が少し今までの計画からもう少し離れたところも予定になる可能性があるということで、その場所が広がりました。今度は、今後どういう流れになるか、今度はルートの要するに決定が、それも詳細な橋だとか切り土だとかトンネルとか、詳細なものでなくて、要するに、我々も見ていていらいまするんですけれども、大体のルートが近く発表されるのではないかなという、これも予想なんですけれども、大分それが信ぴょう性を帯びてきたということで、今日、皆さん、これから学校の検討をする中で、土地について皆さんのほうで今後、そういったことまで入っていただいて検討していただければというところまで、私とすれば来たんではないかと思います。

今、ここまで来ますと、多少学校の関係で土地問題でいろいろな議論があったとしても、中部横断道にはもう差し障りはないと、これ以上中部横断道も後ろへ戻るようなことはない。かなり前向きに国も県もこの中部横断道 40 キロについては積極的に今後取り組んでいただけるということが見えたので、ぜひ南牧の教育委員会、あるいはこれから議会、そういう場で学校の場所を決めていただいて、内容はこういう形でやっていただいてということで。

いよいよ、私も皆さんに報告しなければいけないわけで、新聞報道、あるいはいろいろな関係で、私も今期いっぱい村長を辞するという中で、最後のそういった、ここについて、中部横断道についても最後のやれるところまでしっかりやっていこうという、今日は皆さん

のこれからの活動、教育長のほうからご説明いただけるかと思いますが、それと、私も皆さんのほうから要望があれば、真摯に受け止めて、それに向かって努力していくということで、。

ちょっと長くなりましたけれども、今後ともいろいろな学校建設に向けて、皆さんと一丸となって進めていけるように、よろしくお願いします。

○高見澤総務課長 ありがとうございます。

◎会議事項

○高見澤総務課長 それでは、早速会議事項に入ります。

(1) のこれからの南牧村の学校について、教育委員会の渡辺先生より説明をいただいてよろしいですか。

○高見澤教育長 今日はお忙しい中、総務課のほうで企画しているイベント 会議ということでありありがとうございます。

先ほど、村長さんから話があったとおり、24 日の月曜日の夜 6 時半から中央公民館で村民の皆様を対象に、これからの南牧村の学校ということで、意見をいろいろ聞く機会を設けさせていただきました。その後が 9 月 2 日、11 月 25 日というふうに 2 か月に一度ずつ、今回都合で参加できないという、また、毎回参加してもらう方でも結構なんです、ワークショップを開いていきたいと思います。

それで、今日は 24 日に実際にこんな形で進めますということ、村長さんと総務課長さんのほうに知っておいてもらうということで、最初はリハーサルをやりたいと思います。

ぜひ、聞いてもらいたいと思います。

まず、次長のほうから、本日は、これからの南牧村の学校に参加していただきありがとうございます。それでは教育長より挨拶をいただきますという言葉があります。

そうしたら、私のほうで一言ちょっと言います。

このような形でやり取りしたいと思いますのでよろしくお願いします。

一言ご挨拶申し上げます。

これからの南牧村の学校、みんなで自由に話そうと題し、ワークショップの御案内をしたところ、お忙しくまたお疲れの中、お集まりいただきありがとうございます。

今日は、南牧村の小学校像、中学校像について、皆様のアイデアを聞かせていただきたいと思います。

さて、今回開催いたしました理由を申し上げますと、まず、平成 28 年に村内の各界、各層の代表者が委員となり、構成しました南牧村学校づくり委員会が議論を重ねて答申された現在ある 2 校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において特色ある小中一貫教育を目指すとしたことについて、学校の在り方は見えたものの、6 年以上の空白の時間を作っていました。新しい学校ができると希望を持っていた皆様には大変申し訳なく思っていますが、答申が出てから今までの間に小中一貫教育が新たに法整備されました。

また、新学習指導要領が示され、新しい時代の教育が具体的になってきて、教育の方向が大きく変わろうとしています。

平成 28 年以降の教育環境の変化を皆様に知っていただき、南牧村学校づくり委員会の答申を踏まえた上で、なおかつ、これからの新しい学びに即した学校づくりを村民の皆様と一緒に考えていきたいということです。

どのように変化してきたかについては、後ほど渡辺指導主事より説明していただきます。

さて、今、南牧村の小学校、中学校の教育現場で抱えている問題について報告します。

一番目の課題として、児童生徒数の減少です。メモをしていただく方はメモの用意をお願いいたします。現在の児童生徒数は、小学校では北小が 53 名、南小が 65 名の 118 名です。中学校は 79 名です。これからの南牧村の児童生徒数の推移を見ますと、南牧村全体で来年 5 才児が 30 名、4 歳児が 24 名、3 歳児が 21 名、2 歳児が 19 名、1 歳児が 18 名、ゼロ歳児が 11 名と年々減り続けます。令和 5 年度、つまり来年の 3 月までに生まれる予定の子どもは、今日現在 16 名と聞いています。

今年度生まれる子どもが 1 年生になるとき、南牧村全体で小学校が 109 名、中学校が 69 名となります。

次に、2 番目の課題として、南牧村で勤務していただく先生の確保です。現在、可能な限り南牧村の教育環境を良好に維持するため、中学校で 5 名、北小学校で 2 名、南小学校で 1 名の合計 8 名の先生を何とか村の経費でお願いしていますが、通勤や住環境などの課題があり、先生の確保には四苦八苦しているのが現状です。

南牧村の基本方針である、健康で豊かな心を持つ人間の育成と、誰もが安心して豊かに生活できる魅力ある村づくりを目指してということをこれからも実現し続けるために、どのような学校づくりをしていったらよいか、皆様のアイデアやまた学校に対する夢を教えてくださいたいと思います。

本日は大変ご苦労さまです。

ということで、終わります。

それでは、渡辺指導主事、よろしくお願いいたします。

○渡辺指導主事 渡辺です。座って説明させていただきます。

まず初めに、平成 28 年の学校づくり委員会の答申から今までの間に、国の方針が大きく変わってきています。そのことについてお話ししたいと思います。

南牧村では 28 年度に学校づくり委員会より、現在ある 2 校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において特色ある小中一貫教育を目指すと答申が出されています。

その後、小中一貫教育については、平成 27 年に学校教育法などが改正され、平成 28 年度から義務教育学校、中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校が制度化されました。

その後、平成 29 年には学習指導要領が改訂されました。小学校では令和 2 年度から、中学校では令和 3 年度から新しい教育課程が実施されています。

令和 2 年には、令和の日本型教育が示されました。令和 4 年に、これからの新しい学びに即した学校施設の在り方が示され、学校整備指針が改訂されました。

大きく変わってきた、これからの学校像についてお話をしていきたいと思います。

私たちがこれからはどんなことを大切に考えたらいいのかを考える参考にさせていただけたらと思います。

まず、平成 29 年に告示された学習指導要領改訂の趣旨についてです。予測困難な時代にあっても、子どもたちには、前を向き、変化を受け止め、よりよい豊かな未来の作り手になっていくことが期待されています。子どもにとっては学校教育とは、社会にはばたくための土台づくりの場です。社会の変化に対応し、生き抜くために必要な資質、能力を備えた子どもたちをはぐくむために学校指導要領は改訂されました。

令和 2 年に示された令和の日本型教育では、これからの社会の在り方が劇的に変わるであろう Society5.0 時代、超スマート社会の到来や、先行き不透明な予測困難な時代を見据え、これからの時代に生きる子どもたちに必要な力として、未来の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の育成と位置づけられています。

人類の社会は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会と進化発展してきました。これに続く新たな社会の姿と位置づけられているのが Society5.0 の超スマート社会です。

現在の情報社会が抱える課題や困難を克服し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送る人間中心の社会を目指しています。

社会の進化、発展に合わせて学校も変化してきています。全員が決められた時間に一斉に授業を受け、知識を正確に記憶する基礎学力重視の勉強の時代から、主体的、対話的で深い学びの学習の時代へ変化してきました。さらに、今後は好奇心、探求心をつけることを目指した学びの時代へと変化していきます。

学校の授業も大きく変わります。従来型の黒板に向かって先生が講義する授業ではなく、調べたり、議論したり、まとめたり、発表したりする学習が多くなります。学級全員で同じことをやるのではなく、1人でやったりグループでやったりします。場所も教室だけではなく、様々な場所で、学習方法も個々の進度や課題によって違うこともあります。

そこで、それに合わせて新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方についても示されてきました。

新しい学校施設のビジョンとして、学び、生活、共創、安全、環境の5つの姿と具体的な空間の在り方が示されています。

まず、学びについて。具体的には、1人1台端末環境などに対応したゆとりある教室を整備すること、多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応をすることとあります。具体的には、自由度の高い教室周りをつくること、図書館から学習情報センターへ変えていくことが提案されています。

教職員のコミュニケーション、リフレッシュの場や、専門的で高度な学びを誘発するデザインラボ、映像編集空間などの整備が示されました。黒板、チョークからICT教育環境に変わります。

特別教室は、創作工房、アトリエへ、職員室から教職員ラウンジ、このように変化していくと思われます。

生活では、健やかな学習生活空間を実現するために、温かみのあるリビング空間やトイレの洋式化、軟式化、手洗い設備の非接触化などの実現を目指すこと。

共創では、地域の人たちと連携協働していく活動交流拠点として共創空間を創出することとあります。

トイレについては、4Kから新4Kへ。

地域を支える学校、地域が支える学校という考え方で学校施設をつくっていくことが示されています。

長く使い続けることができるように、安全性を確保し、子どもたちの学び、生活の場、地域のコミュニティの拠点としていくことや、省エネルギー化や再生可能エネルギーを積極的

に進め、環境教育の活用や地域の先導的役割を果たしていくこと、地域のコミュニティの拠点として防災の拠点に学校がなることや、エコスクールになるように設計の工夫などが必要になります。

今、全国には新しい学びを実現するための学校が続々と建設されています。この写真は、愛知県瀬戸市にある瀬戸SOLAN小学校です。私立の学校ですが、壁がなく、学びに合わせて多様な使い方ができる設計になっているそうです。

この学校は、愛知県小牧市にある小牧南小学校です。普通教室と特別教室棟をつなぐ中央部に配置した図書エリアが特徴になっています。3層吹き抜けの立体的な図書室で、様々な角度をつけた階段がかかっています。ここを中心に、どの教室とも行き来できる構造になっているようです。

これは、北名古屋西春中学校です。地域との拠点になるメディアセンターが造られていて、地域開放の昇降口を設置しています。開放する教室を集約して、地域住民が利用しやすい形態になっているようです。

今日のワークショップでは、南牧村にこんな学校ができたらか、こういう学校ができたらかなるんじゃないかとか、夢を膨らませて語っていただけたらと思っています。

次に、新しい学校の形態についてお話をします。

まず、新しく制度化された義務教育学校について説明をします。

南牧村では、併設型の小学校中学校の建設を目指してきました。青の部分で書き込まれているところです。その後、平成28年に義務教育学校という形態が示されました。赤の部分です。ともに、小中一貫教育には変わりはありません。

義務教育学校とは、目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、小学校、中学校の組織が一体化した学校のことです。小中一貫校との違いは、1人の校長、1つの教職員組織であるということです。

南牧村で義務教育学校をつくる場合、図のような配置になります。

このような配置になります。

校長1人分の配置枠を教諭として配置することで、教員1人分のゆとりができます。この赤の丸の1人が校長が1人になることで、教員が1人配置されるということです。

この1人を適切に活用することで、授業の準備や個別指導などの充実が図れます。

また、中学校の音楽や美術、家庭科などの担当教員が、小学校の指導に当たることも可能となります。

9年間、9学年が同じ校舎で学習する効果として、主なものは、中学生に小学生の模範として行動するような自覚が生まれ、小学生には中学生に憧れる気持ちが芽生えます。中学生に低学年と接する機会ができることで、小さい子どもに優しく接しようとする気持ちが生まれます。幅広い異年齢交流が将来的に地域のつながりを強くします。中1ギャップの解消や不登校の減少も報告されています。

全国の先行事例では、学校独自の特色ある教育活動の推進で効果が上がったとの報告があります。

教育環境研究所所長の長澤先生がこのようなことを言っています。

学校づくりとは、教育と施設、学校と地域、ソフトとハードを総合的に考えることである。建築は土地の上に建ち、学校は「観」の上に建つ。「観」とは願いのことです。初めに関係者が、子ども観、教育観、学校観、施設像などの観を共有する計画、プロセスが大切で、観は学校ごと地域ごとに異なりますので、そのことを話し合い、共有することで私たちの学校となっていくます。

学校づくりの観とは、未来社会を生きる子どもの姿を考える子ども観、教育を問い直し、目標を共有する教育観、地域のみんなで地域にとっての学校を考える学校観、固定観念にとらわれず意見を出し合う施設像、このような考えです。

今日はどんなことでもいいので、ご自分の願いや思いを話してみただけたらと思います。

ただ、何もないところから自分の考えはなかなか言えないと考えて教育委員会で基本コンセプトをつくってみました。

それは、集える南牧小中学校です。南牧村につくる新しい学校は、単に建物を造るのではなく、南牧に住む人にとってかけがえのないものになることを第一の考えとしました。

学校に通う子どもたちだけでなく、南牧に住む皆さんが集える学校です。

どういう子どもを育てたいかは、村民の皆様とともに考えていきたいと思っています。

南牧村のシンボルになる学校にし、みんなが集える複合施設がある、例えば、公民館を併設するなど、学校を核として地域づくりを考えていけたらと考えています。

今日のワークショップでも基本コンセプトを基に自由に話していただけたら幸いです。

1つ、話し合いのルールを提案します。それは、ほかの人の考えにポジティブな言葉をかけていただけたらということです。今日参加されている皆さんは、1つの考えでまとまっているわけではなく、様々なお考えをお持ちです。

この会の目的は、自由に話そうなので、自分の考えに近いことも、自分の考えと違うこともあると思います。自分の考えを言ったらほかの人から否定されたら、自由に話す雰囲気が壊れてしまいます。この場にいる皆さんが、自分の考えを言えてよかったと思ってお帰りになれるようにお願いしたいと思います。

以上です。

○高見澤教育長 ありがとうございます。

これで、この発表が終わった後、グループに分かれて、それぞれ、教育委員の皆さんに、まとめ役、司会になってもらって、グループ討論をして、まとめて終わりにしたいと思いますので、このような形で 24 日は進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○高見澤総務課長 今、教育委員会の渡辺先生のほうから、24 日に行われますワークショップについてのご説明がありました。

どうぞ、教育委員の皆さん、あるいは、村側とワークショップについてのご議論、あるいは、冒頭申し上げた中部横断自動車道との関連性について、どうぞ忌憚のないご意見の交換をいただきたいと思います。

どうでしょうか。

○高見澤教育長 座ったままで。今回のこれからも、南牧村の学校ということで、先月の公民館の館報を配るときに、全戸配布しました、公募でやるということで。村長さんの承諾を得て配ったんですが、昨日現在、申込みが 20 名という少ない数です。

それで、これからもうあと 3 日しかないんで、再度、ちょっと村内の放送とか、Y K T V を使って、周知をもう一度図って、基幹産業である農業が一番、観光業もそうなんですけれども、忙しい時期なんですけれども、1 人でも多く参加してもらうような形でやっていきたいと思いますので、ぜひ村側でも理解していただきたいということをお願いします。

○高見澤総務課長 何か教育委員の皆様のほうから、何か村側と意見交換するような内容等ございましたら、お出しいただきたいと思いますが。

○高見澤みち子委員 村長さんの感想をお聞きしたい。さっきの説明を聞いていただいて。

○大村村長 これはだから、今、渡辺先生が取りまとめていただいた内容については、大変すばらしいなと思いますし、また皆さんも、いろんなところを見て、大分その学校の内容とか、地域とのコミュニケーションとか、そういうところはしっかり勉強していただいているなどという感想を持ちました。

非常に、コロナの中でなかなか自由に行動できない部分もあったり、コロナのときに行っちゃうとまずいわけですけども、そういう中で、よくこういった検討していただいたということは、本当にありがたいことだと思います。

私はどっちかというと、学校の内容よりも、場所とかアクセスとか、そっちのほうを中心に、中部横断道の様子見ながら考えてきたので、そういう意味からいうと、今現在こちらの森下地区の中学校と小学校のところを見ると、ここにインターができる。ここはインターでできるのが間違いない。

ただ、地域活性化インターなのか政策インターなのか、分かりませんが、多分地域活性化インター。これは両相木がありますよね、南北相木で。こちらの皆さんも、できればここから乗りたい。ここから乗るに当たっては、国道にまず出る。国道を出たら小海線を渡らなきゃいけないということで、その辺のことも考えると、いずれにしても中学校のそばにアクセス道路が入ってくる。

場所について、どこがインターンになるかって、分かりませんが、少なくとも、学校の周辺、中学校の学校の周辺になるのは、立地条件からいってそこしかない、あとはもう宅地もありますし、山とかもあるんで、中学校のそばにインターができると、やっぱり学校、そこに小中一貫校となると非常にやっぱり騒音関係で、かなり環境的にはあまりよくないなというのはあります。そこがどのぐらい離れるのか、どのくらい環境的に騒音でうるさくなるのかというのは分からない。

そうすると、やっぱり、上のほうに持ってくるということになるんですけども、インターとの距離があんまり離れ過ぎちゃうと、通学にまた支障を来すんで、その辺の絡めながら、考えている。

もう一つ、南小をできれば何とかしたいなと思って、実際やってきたんですけども、今日、前区長やっていた、忠彦君も今も教育委員でやっていただいているけれども、非常に地区的な土地の問題があって、なかなかそこは、今現在では非常に、ご検討はいただいているとは思いますが、かなりやっぱり難しい問題があるのではないかと思います。

ですから、そういったものを頭に入れて、アクセスがよくて、なおかつ環境がよくてということになると、もう村所有の土地はございませんので、個人の土地、あるいはそういった関係の土地を探してやるのも考えていかないといけないかなと思います。

もう一つは、予算の面ですけども、おかげさまで、南牧村には基金がありますし、また学校を建てるときに使う目的基金というような形で、皆さんが努力して、基金の用意をして

ございます。

それから、先ほど渡辺先生が学校をつくるに当たって、文科省のほうで、新たな学校創設する資金のそういった機関もあるということでございますので、そういったものを組み合わせていくと、資金面については、そんなに問題はないと思います。

これで、中部横断道のルートも、ここまできますと、秋までにはしっかりとした路線が決まるんじゃないかと思いますので、そういう中で、予算もある、内容もこういった形でだんだんと検討いただいているということになれば、場所だけ決まれば、中部横断道、あと 10 年かかるか 15 年かかるか分かりませんが、学校は、建設に向かって進めていけるんじゃないかと思います。

その点、皆さんには、これからいろいろとご負担かけるかと思いますが、よろしくお願いします。

今後とも、よろしく活動をお願いをしたいと思います。

○高見澤総務課長 どうでしょうか、委員の皆さん、ほかにご意見等、あるいはありましたら、お出しいただきたいと思いますが。

○高見澤総務課長 渡辺先生、今パワーポイントを見た限り、義務教育の効果については記載があったんですけども、例えばそういった効果じゃないデメリットといいますか、短所みたいなものがあるような気がするんですけども、そこら辺はないんでしょうか。

○渡辺指導主事 義務教育学校についてですか。

そうですね、それぞれの学校をつくっても、長所もあれば短所もあるのはあるので、義務教育学校の短所という、先生方にちょっと負担がかかるかなと思います。

例えば、音楽の先生が小学生も教えることも可能となっているんですけども、そうすると、例えば、5、6、中学1、2、3と教えると、5 学年分の教材研究をしなきゃいけない。

○高見澤総務課長 先生はともかくとしても、児童生徒の皆さんには、こういった何か、効果じゃない部分というのは、統合してというのは何かある。それはない。子どもたちは。

○渡辺指導主事 子どもたち、今のデメリットのほうが大きい。義務教育学校にすることで、今考えている問題が解決できることは多いと思います。

○高見澤総務課長 例えば、これから7月、9月、11月、この3回のワークショップをする中で、このワークショップの結果というものをどういう形でこれからの教育行政にフィードバックというか活用していくんでしょうか。

○渡辺指導主事 私が言っちゃっていいですかね。

○高見澤教育長 願い、願望を言ってもらえばいいです。

○渡辺指導主事 今まで、教育委員会の中では、教育委員さんと一緒にとか、中学校、小学校の校長先生たちと一緒に話はしてきていますが、広く村民の皆様からのご意見というのはあまり聞く機会がなかったので、どう思っているのかなというは、とても知りたいところですので、そこを聞かせていただくのを大きな目的としています。

○高見澤教育長 ちょっと今の説明を補足しますと、去年の議会で、学校の在り方というものを委員会を立ち上げてやるということを公表しました。そして、そのメンバーは、教育委員、教育委員会の事務局の職員、それから、3校の校長先生ということで、先進地の学校の視察ということで予算もつけていただいて、それで檜川小学校と行ってきたんですけども、そういうことによって、この学校の在り方の委員会を去年立ち上げた人たちは分かっているんですけども、この6年間の教育環境の変化がある中で、村民の皆様には、まだ、どういう変化しているかということは報告もしていないし、そしてまた、村民の皆さんの意見もまだ聞いていないということで、今回こういう機会を設けて、改めて、今、村の人たちがどういふふうに学校について思っているのかなということを改めて聞きたいということで作ったというわけなんですけれども。

○高見澤総務課長 村民の方々が、今回20名でしたっけ、十何名の方々しか参加しない、農繁期で忙しいということがあるんだろうけれども、ちょっと関心がないというのか、どこにあるんでしょうかね、その というのは。

○高見澤真紀委員 私、ちょっと何人かの方に聞いたところ、やはりこの6時半という時間が、子どもを置いて夕飯時に出かけられないということを言われました。

なので、最終回が土曜日の昼間という時間があるので、そこにはぜひということを申し上げているので、そこに来ていただけたらなというふうに思っています。

○高見澤総務課長 私が感じるには、やっぱり村民の方々の関心というか、議論がなかなか進まない限り、学校の在り方というのはなかなか進まないような気がするんでしょうけれども、特に、時間的な問題、物理的な問題あるんでしょうけれども、どこにその関心があるんでしょうかね。

○大村村長 もう今のまんまでもいいという、そういうふうになっちゃった。

何とかなっているから。

○高見澤みち子委員 今は、まだ何とか、人数的に。

○高見澤教育長 村費で8人も雇ってもらって、何とかさまにはなっているというのか。

○高見澤みち子委員 学習活動も2学年合同で体育やったりとか、いろんなをやったりしていますが、これがさらに減るとなると、もう本当に授業も成り立たなくなるというか、先ほどのこれからは、議論して、みんなでグループトークとか、発表したりとか、そういうことも、どんどん難しくなってしまう。

これから一緒になったところで、人数は少ないんですけども、それでも、1人でも2人でも多く。それで、こうやって、すごくあの学校いいねとなれば、もしかしたら、佐久穂の大日向小のように、よそから南牧の学校に行きたいと言って、外部からも来てくれる人もいるかもしれないし、そういうふうな、地域活性化、やっぱり子どもが増えるということは、すごい大きいことなので、そういうふうなところまで広げていくといいなと思っているんですが。

○大村村長 1つ話しすると、みんな中部横断道につながるんだけど、なぜ中部横断道を一生懸命やるかという、今の日本の社会事情を見ると、大体、これであと20年すると、住まない村、人口減少と、要するに、村が消えていく村というのがあるんですよね。それは前にも深刻な学者だか何かが出していた、2,000か所か3,000か所、村がなくなっちゃう。そのくらい人口減少になる。

ところが、うちの村は、今言ったように、国道が通っていて小海線が通っている、なおかつこの中部横断道、決定的にルートが決まるといえるときに、少子化だとか地方創生だとかいろいろ言われているので、そこに対応できるわけです。

今、地球環境も変わってきて、非常に、野辺山でも十分生活できるわけですから、そうなってくると、都会の40度になっているところが、今後ですよ、かなり、南佐久、南牧、高原に人が集まる可能性がある。それは、今の農業形態ではちょっと無理があるんですね、あれ。もう後継者だけしかできないし、後継者ももう育たないし、牛なんかの場合もそうなんです。

そうなってくると、ほかのIT産業とか、あるいは、ほかの産業が入ってくる。土地もあるわけです。

そうなってくると、学校をどういうふうにするという段階から、やはり南牧に生まれて、南牧のそういった小中一貫を出て、できればここで定住する、要するにプロセスを考えると、別に都会でなくてもいいわけです。

今の人口減少というのは、我々がそうだけれども、ここで人をつくって、機械を生産して、東京へ持って行って使って、その使ったのがみんな朽ち果てて、そこでみんな、再生されないんですよね。再生する能力がないから、東京。それが、またこっちへ戻ってきて再生して

くれば、人口も増えるんだけど、行ったまま帰ってこない。帰るところがない。場所はあるんだけど、仕事がないとか。

それもやっぱり道ができないと、なかなかできなかったのが、今度、道がそういうできて。別に東京に行かなくていいわけです、ここで生活、この環境の中でやれば。

そういうふうに、将来につながるような学校。どうしても東京へ行きたいといえ、それはしょうがないけれども、行ってもまた帰ってきて、ここで家族をつくとかね。じゃないと、今、東京一極集中やっていくと、全部日本中の皆さんがそこへ行って、家族、家庭を持てばいいですよ。もうそんな暇ないですよ、経済的にも。だから、日々、楽しい生活いっぱいだけで、気がついたときにはもう結婚適齢期が過ぎちゃって、子どもを持てる時期も過ぎちゃっているという、そこがやっぱり、国が直してくれればいいけれども、なかなかそこまで目が行っていない。

自分の村で、そういったことを、そこまで考えてやれば、場所はあるし、道はあるし、条件はいいわけです。

そういう学校をつくっていただくと。

もう一つは、先ほど土地の話したけれども、農家の皆さんは、それはもう、そういうときも規模拡大して農地もあるんだけど、村は、土地はないですけど、土地はある、公共の土地がある。それは信大であり、天文台であり、筑波大。これは昔は 20 年前は、もう 200 人、300 人、天文台なんかもっと、家族含めて来ていたわけです。

ところが、今は、ほかに施設があって、十数人ですよ、多分。40 町歩ありますから。そういういったところを国が持っているんだけど、何とか村で確保して、そういう企業施設を造る。信大もそうですよね。農場があって、年間何千人と来ていた、学生。でも、今一人も来ないです。来る学生がいらないのか、そこで勉強する環境が古過ぎちゃっているとか。

ですから、そういったところも、今後活用していくと、村で活用していく。筑波大もそうですかね。

そういうことを考えると、そういう状況というのは、作り出せばあるわけですから、それとこれと絡めて。そこまで 30 年、40 年先のことで考えると、かなり、この辺はいいと思う。

ということで、頭の中にぜひ入れておいて、今後は考えていただければと思います。

少し時間はかかったけれども、それなりに、恐らく無駄な時間にはならなかったんじゃないかと思います。

○高見澤教育長 今の村長さんの話は、未来に開けている話ですし、私、教育委員会にお世話になって感じたことは、今、村長さんが説明したとおり、交通網がよくなったり、標高 1,300 メートルとか高原の地帯で温暖化の中でも最後まで残る地域があるということと、あとそれから資金面でも十分、村長さん、前からずっと積み上げてきたものが十分あると。

そういう中で、学校をつくるということになると、南牧村の場合、1 個つくればいいわけです。それはいつも言うんですけれども、そうすると、村長さんの意見とみち子さんの意見を合わせると、特色ある学校が南牧村では可能だと、実現可能だと。

臼田小学校はできたけれども、ほかにまだ 13 校、佐久市にあって、臼田小学校だけ特徴ある学校にするというわけにいかないんだそうです。ほかのと同じようにしなきゃということで、そう考えると南牧は、そういう面でも、みち子さんの意見も反映できると思うし、それで資金面も、環境も交通網もとなれば、教育と産業、車の両輪で、産業も誘致したり、一次産業から今度、二次産業、三次産業で、IT 関連だとか、ハイテクの関係も誘致することも可能ですし、そういうことがあれば、ここでしっかり議論を重ねていけば、学校を中心とした人口増というのも、また帰ってくる。今、村長さんが言ったように、東京へ行った人が帰ってくるというような環境が出てくる。

○大村村長 日本のために皆さん働いて生活している。別に、大都市のために、子どもを準備して、学校で勉強させて、高校、大学へ通わせて、やっているわけじゃないですよ。地域が、もうお互いに競争し合うような今状況になっている、子どもの取り合いとか、露骨にはやっていないんですけれども、地方創生、要するに、どんどん衰退していっちゃう。

それは、やっぱり歯止めをくれるには、学校のことからやっていかないと、ですから、いろんな勉強してもらって、できれば、そのままここで生活してもらうような形じゃない。せっかく教育して、いろいろ苦勞したんだけど、気がついたら後継ぎがいなくてとか、そういうもう人がいいようなことをやっている状況じゃないんですよ、これから。

○高見澤教育長 地域間で競争していかなきゃいけない。

○大村村長 ここで勉強したら、ここに……

○高見澤教育長 住んでもらうと。

○大村村長 生活していただくので、外へ出たかったら、経済力を蓄えて、東京ディズニーランドへ行きたければ行けばいいし。行ったままというのが一番困る。

○高見澤教育長 それは、みち子さんと今、村長同じことを言っているんじゃないですか。特色ある学校をつくってというのは。一面で。

○大村村長 村の人口も 3,000 幾つだっけ。それは総務課長が一番知っている。今、2,000……

○高見澤総務課長 2,900 切りました。

○大村村長 どんどん減っちゃう。小学生だけじゃない、学校の子どもじゃなくて、我々もあと 10 年たてば死んじゃって、いなくなっちゃうんだけど、その人数が多いわけですよ。だから、できれば、学校もそうですし、皆さんに、家族をつくってもらって、そっちのほうもやらなきゃいけないんだけど。

○高見澤教育長 ぜひ魅力ある学校づくりに協力を村のほうにもお願いしたいということでどうでしょうか。

○高見澤みち子委員 先ほどお話だと、建設検討委員会の答申のときは、南小のところか中学校のところかということだったんですけども、さらにまたほかの場所も考えていくということなんでしょうか。

○大村村長 だから、そのところは公共施設だったんで、村が何とかすれば、それはできるという。村が別に、土地についてはですよ。

いろいろやってみたときに、板橋の積極的に、区長のときにですけども、それは板橋の事情があって、絶対駄目というんじゃないくて、少し時間がかかる部分がある。

例えば、中学校は中学校で、ここまできると、ルートのかなりキツイというのは、それは前々から分かっていたんですけども、はっきり、この中部横断道なんて、雲の中を飛んでいるような感じで、これというものがないんですよ。これというのがないんですけども、村のやっぱり熱意とか、要するに、そういう周りの中部横断を造るぞという案からどんどん進んでいく。

だから、学校もそうだと思うんですよ。だから、皆さんで地域愛と今後のために南牧村を今後ともいい村にするために学校をつくると、みんなの熱意で、また、場所は今後、どこにしろ、皆さんいろいろ意見出してもらって、環境のいいところにつくったらいいわけですよ。

こう見ていて、非常に南牧村というのは、今、学校について関心がないという面もあるけれども、地域的に見ると、いいところですよ、すばらしいところです。

ただ、考え方として、千曲の川があって、国道があって、小海線があって、そのほかに膨大な土地があればいいんですけども、ちょっと後ろを向くと、もう山、千曲川の川が流れている。災害もそういうところで起きている。そういったことを考えると、すぐにはいいんだけど、何か大きな事業やるにはちょっとという。上にあるわけですから。

○高見澤みち子委員 ただ、皆さん本当に関心がないわけではないと思うんですよ。

○大村村長 あると思いますよ。

○高見澤みち子委員 なかなかどういうふうに、自分の思いとかを、どこでどういうふうに出したらいいかわからないという人も多分多いと思うので、なるべく、いろんな機会を設けて、聞いていきたいと思っています。

○大村村長 それと、いろんな学校プログラム、夢を持ってやってもらえばね。それは夢だから、描こうとすれば、描けるわけですよ。描ける場所だから。

○高見澤教育長 将来ね、南牧はね。

○大村村長 特に、どんどん衰退してくからね。そう思って子どもを増やすような、そこから始めなきゃいけないんだけど、そこがなかなか難しい。

今、若い皆さん、帰ってくればいいけれども、帰ってこないわけですよ。要するに、もう楽しい生活が大都市にあるわけだから。

○高見澤教育長 味わっちゃえばね。

○大村村長 そこで、それは確かに収入は厳しいのもあるけれども、でも毎日が楽しいわけだね。楽しく過ごしているうちに、どんどん歳取っちゃって、気がついたときにはもうなかなか。

○高見澤教育長 帰りたくても帰れない。

○大村村長 そういうのもいいんだけど、それじゃ地域がどんどんこういうふうになっちゃう。

東京はあんなに発展しなきゃいい。道つくったりいろんな設備つくったり、いろいろやっているんだけど、まだ欲かいてやっているわけ。少しそこは遠慮したほうがいい。日本の人口がこれだけ減って、地域が疲弊しているんだから。

○高見澤みち子委員 ただやっぱり、働く場所がないというのは大きいと思うので、行政として、企業誘致をしていただくとか、何か若者が帰ってきて、職業に就けるような、何か考えていただくとか。

○高見澤教育長 新しい学校をつくることによって、その一助を担えば、産業誘致と、新しい学校を魅力ある学校、理解していただいてつくることによって、さっきもみち子さん言ったけれども、1人でも多く入ってくれば。

○大村村長 昨日も一昨日も東京へ行ってきたんですけれども、もう暑くて。それは、部屋の中で会議はいいですよ、一歩外へ出れば地獄ですから。そういうのを考えると、今、コロナ

のとき皆さん、ITを使ってリモートなんかやっていたけれども、そういうことになれば、どこでも仕事ができるわけですよ。製造業以外はね。

そういうふうになると、もう選択肢は物すごくあるわけ、環境のいいところで。こんな冷涼な気候のあるところが最終的には生き残りますよね。

○高見澤教育長 同感です。

○大村村長 だって今、東京、この間、39度なんて言っているけれども、東京なんてまだ涼しいほうだよ。

ベルト地帯を見ると、40度、50度なんていうのがざらにあるから。

○高見澤教育長 イタリアとかね。

○大村村長 ちょっと話がオーバーになっちゃうけれども、そのぐらいやっぱり皆さん、夢を持ってもらえば、割合といい学校ができるんじゃないかと思うんですけども。

○高見澤教育長 ぜひ理解をお願いいたします。

○高見澤総務課長 どうですか、渡辺先生。何かあれば。こんな感じで。

○渡辺指導主事 はい。

○高見澤教育長 忠彦さん、一言。

○大村村長 皆さんに。

○高見澤教育長 せっかくですから。

○吉澤委員 思い切って早めに手を打ってもらいたいなと。

○大村村長 あとは、だから、場所だよ。

○高見澤教育長 お金の面は、もう本当に南牧の場合は、しっかりしていますし、さっき村長言われたとおり、そこは心配する必要がないような気がします、お金の面は。

○大村村長 それは国にお願いして。

○高見澤教育長 できる限り、返さなくてもいいお金を。

○大村村長 そういうところについては当然支援します。

○高見澤教育長 ぜひお願いします。

○大村村長 あとはアクセス、子どもの通学のその部分がちょっとやっぱり離れているから。

1つにしちゃうと、今2つあるからいいんですけども、その部分。

○高見澤教育長 一貫校としてということですね。

○大村村長 いろいろ中部横断道を造る上については、いろんな話を国、県にはお願いしている。ただ、それが通るのか通らないのか、分かんないけれども、調整会議なんかはいい例で、

やっぱりこれはもう、ホームページ出ている。なぜ調整会議やったかという、村がお願いしたのは、冬の寒さをどうしますかとか、農地、優良農地があるんで、そういったところに配慮して。

それから、夜は夜で、星、三選にも選ばれているようなところなんで、いろいろライトつけても大丈夫ですから、そういったときに星の関係ね。景観がちょっとどうですかとか。

そういうのを考えると、やっぱりはっきりは言えないんですけども、かなり国や県は、調整会議で配慮してくれたんじゃないかなと思いますね、それはね。

○高見澤教育長 南牧の要望をいろいろ聞いてくれたということで。

○大村村長 だって、それは調整会議って、ほかのところでは、そこにルートがないわけだから、1キロ帯に入っていないわけだから、何のための調整会議といったら、南牧村と小海の。小海は、そういった要望なかったらしいんですけども。

コロナの中で皆さんに集まってもらって、いろんな意見を聞くチャンスもなかったんで、皆さんの考えていることを要望した中での調整会議だった。

○高見澤教育長 真紀さん、どうですか。6時半の初めのだけでなくていいけれども。

○高見澤真紀委員 先ほど、教育委員会さんもおっしゃっていたけれども、やっぱりきつと意見として出るのは、9年間というところで問題が起きたりとか、何か、人間関係が子どもたちの関係でぎくしゃくしたときに、立て直せないまま過ごすことになったらどうするんだという意見がきつと出るんじゃないかなという、その部分をどういうふうにやっぱり考えていったらいいのかというのが課題かなというふうに考えていました。

○吉澤委員 だから、24日の結果もあれなんですけれども、かなり厳しい意見も出るとは思いますので、それをしっかり受け止めて、村長さんの行動を待ちたいと。

○大村村長 俺の行動というか、やっぱり1つは、自分の家族がいて、自分の子どもがいて、できればその子どもは地域に残るような、やっぱり教育体制をつくってみたほうが、我々のほうはもう、うちにいると仕事なくて、みんな外に出られて。中学生もいずれ就職あつせんとかあつたんだけど、今はもうそういう時代じゃないんで、自分の村で育った子どもは、自分の村の中に、どんどん家族を増やしていく、そのぐらいしたたかじゃないと、誰のために教育しているのか分かんないから。

皆さん、親や兄弟や何かみんないるじゃない。

○高見澤教育長 いるけれども、村にはいないよ。

○大村村長　それがみんな行っちゃう。

昔、ある地区なんかいつもそうだけれども、隣近所でけんかするわけですよ。大したけんかじゃないんだ、水路が行ったの来たのぐらいの。で、欲をかいて、いよいよ来たときに気がついたら、隣はいなくなっちゃった。寂しい話だよね。何のために隣とけんかしていたのか。

そうすると今度、自分も後継ぎがいなくなると、何のためにそこで

そのぐらいの話ですよ。そうじゃなくて、もっとすばらしいビジョンをつくれば、いいところで、将来性もあるので、そういう方向に。

○高見澤みち子委員　ただ、今の状況だと、私も子ども3人いますけれども、帰ってこいとはなかなか言えないです。帰ってきて何するのって言われたら、何もないので。

○大村村長　だから、それで帰ってこいと言っても、今だと東京から3時間も4時間もかかるわけですよ。

中部横断道ができれば、そういうのは、長さからいったって小諸までわずかですよ。

○高見澤教育長　僅かだね、30分かからないから。

○大村村長　横断道ができると、それはもう2時間見ていけばね。

長野も前は3時間以上だった。今、2時間というけれども、2時間も遠い。だんだん人間贅沢になってくると、佐久穂から行くと、もうおっくう。できればここから、1時間くらいなところで。

だから、そういうふうにすると、子どもだって、いたくて東京にいるわけじゃなく、都会にいるわけじゃないない部分もある。

やっぱり働くところがあれば、これだけの環境のいいところで子育てしたり、家族つくったり。

そこまで言うと、教育委員会なんていうかもしれないけれども、でも、そこまではみんな考えないと、何のために学校つくるか分からないという話に俺、なると思うよ。

○高見澤教育長　逆に、何か注文されたような気が、教育行政の。

分かりました。ありがとうございます。

どうもよろしくお願いどうもありがとうございます。

◎閉会の宣告

○高見澤総務課長　以上をもちまして、令和5年度の第1回の総合教育会議を閉じさせていた

だきます。

ありがとうございました。

閉会 午前 11時 13分